



今週のポイント

いちよしアセットマネジメント

AI(人工知能)・半導体集中相場からの分散が進む中、TOPIX(東証株価指数)は最高値更新が続く

国内株式市場は反転上昇基調を維持しています。日経平均株価は、7月29日の取引時間中に付けた安値(60,448.9円)から8月14日の終値(68,713.8円)までで+13.7%となりました。一方、同期間のTOPIXの騰落率は+6.7%に過ぎませんが、史上最高値を更新しています。日経平均株価をTOPIXで割って算出するNT倍率は、6月25日に付けた最高値18.01倍から14日時点で16.37倍まで低下するなど、日経平均株価に偏った上昇とはなっていません。4～6月のAI・半導体集中相場とは異なり、物色が分散する中で上昇相場が続いていることになります。

世界的にも分散傾向が顕著です。直近においては、大きく下落していたAI・半導体関連の上昇を受けてSOX(フィラデルフィア半導体株指数)、NASDAQ総合指数の上昇率が大きくなっていますが、5月末から直近までの主な株価指数の騰落率を見ると分散傾向を確認できます。5月末から14日までの騰落率は、NASDAQ総合指数の-0.9%、SOXの-3.2%に対して、出遅れていた米中小型株の指数であるラッセル2000が+5.1%、欧州の株価指数であるユーロストックス600が+5.1%となっています。日経平均株価は+3.6%、TOPIXは+6.1%です。分散傾向を強めている背景としては、原油価格がピーク時から下落し、その後も不透明な中東情勢にもかかわらず急騰していないことから、供給制約が緩和していることがあります。グローバル・サプライチェーン圧力指数※1は4月の1.82から7月は0.8まで低下しています。また、米国において早期利上げ観測が後退、ゴルディロックス(適温相場)シナリオが復活しつつあることも挙げられます。

7月の米労働指標およびインフレ指標の結果を受けて米利上げ観測が後退

米早期利上げ観測の後退は、7月の雇用統計の悪化、およびCPI(消費者物価指数)、PPI(卸売物価指数)の落ち着きが大きく寄与しています。雇用統計では、平均時給の伸びが低下してインフレ圧力を抑えました。

そして、注目された7月のCPIは、前月比+0.1%(前月:同-0.4%、市場予想:同+0.1%)、前年同月比+3.4%(前月:同+3.5%、市場予想:同+3.4%)と前年同月比は前月より低下し、市場予想と一致しました。変動の激しい食品とエネルギーを除くコアCPIは前月比+0.2%(前月:同+0.0%、市場予想:同+0.2%)、前年同月比+2.5%(前月:同+2.6%、市場予想:同+2.5%)と前年同月比は前月より低下し、市場予想と一致しました。

また、PPIは前年同月比+4.7%(前月:同+5.5%、市場予想:同+4.9%)と前月から大幅に低下し、市場予想を下回りました。低下は2カ月連続です。コアPPIは前年同月比+4.2%(前月:同+4.7%、市場予想:同+4.1%)と前月から低下したものの、市場予想を小幅に上回りました。こちらも低下は2カ月連続です。PPIが示すインフレ率は川上のインフレ率であるため、川下にあるCPIインフレ率に対して先行性を持ちます。したがって、PPI、コアPPIが2カ月連続で低下したことは今後のCPIインフレ率低下に対する期待を強めることになります。

米利上げ観測の後退に加え、国内では好決算が相次いでいることも分散相場が続く要因に

CME Fed Watch※2によると、今後のFOMC(米連邦公開市場委員会)において米政策金利が3.50-3.75%(現状から据え置き)となる確率は9月:67.4%、10月:54.0%、12月:33.7%となっています。市場のメインシナリオとして年内1回の利上げが維持されていますが、7月末時点の2回からは利上げ観測が大きく後退しています。年内に2回の利上げが行われる確率は21.3%となっています。

また、国内において分散相場を促している要因は企業の好業績です。14日時点において、上場企業の第1四半期決算がほぼ出揃いました(件数ベースで99.7%が発表済み)。TOPIXベースで経常利益は前年同期比+51.1%、純利益は同+62.9%です。通期会社予想を上方修正した企業は経常利益ベースで180社、下方修正を発表した企業は12社となっています。そして、通期会社予想は経常利益+10.9%、純利益+14.3%と極めて慎重な見込みとなっています。現時点での市場予想は経常利益+18.5%、純利益+21.6%となっており、会社想定を大幅に上回っています。今後、マーケットは上方修正期待をベースにバリュエーション(投資尺度)の目線を上げることになります。そして、好業績銘柄は非AI・半導体銘柄にも幅広く存在します。分散相場が加速する所以です。

～ワンポイント用語集～

※1 グローバル・サプライチェーン圧力指数(GSCPI)…米ニューヨーク連邦準備銀行が算出・公表する、世界のサプライチェーンの滞り具合や混乱の程度を示す指標。0が平常で、数値が大きいほどサプライチェーンの逼迫を示し、数値が小さいほどサプライチェーンの緩和を示す。

※2 CME Fed Watch…FRB(米連邦準備制度理事会)がFOMCで決める政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標が変更される可能性を確率で表した数値。FF金利先物の動向に基づき算出される。

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績等の記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。